

## 農業分野での日ブータン協力展示 平松大使スピーチ概要（仮訳）

この度、初めてブータンを訪問できたことに感動しています。この美しく自然と文化が豊かな国において日本を代表する大使となったことは私にとって大きな喜びです。

自分のブータンでの最初の仕事が、ブータンの基幹産業であり、日本とも縁の深い農業分野での協力に関するイベントであることを意義深く感じています。日本とブータン経済協力の歴史において象徴的なのは、1964年にはじめてJICA専門家として派遣されたダショー西岡の存在です。彼は農家に対し心を開き対話することから始め、それまで野菜を食べる習慣のあまりなかったブータンの人々に、大根、白菜、キャベツ、人参を栽培することを示し、また、稲の収穫を4割向上させてみせました。また、ジグミ・シンゲ・ワンチュク第4代国王陛下からの依頼に応じてシャムガン南部の開墾に村人と共に取り組み、焼き畑農業を稲作に見事に転換させるなど、ブータンの農業振興に尽力し、外国人としてただ一人、ブータンから栄誉ある「ダショー」の称号をいただいた日本人であることはよく知られています。

山岳国ブータンで、傾斜地の田畑でも使い易い耕運機を日本は1984年から現在までに3,186台供与しました。農業機械の利用により5%の食糧増産、そして24%のコストダウンになったと聞いています。日本は今後も、先日実施した協力準備調査の結果を踏まえて、耕運機供与等を通じてブータン農業の機械化に貢献してまいります。

2015年には、老朽化していたタクライ灌漑システムの改修が完了しました。これにより、タクライにおける乾期の米の作付面積は10haから560haに大幅に拡大し、また、全体の灌漑面積は、883haから1120haに約25%増加することが見込まれています。

園芸分野や農業機械の維持管理を指導するJICAボラティア・専門家の活動は国民からの評価も高いと聞きます。中でも富安専門家は、ブータン東部で園芸分野の農業指導を行った専門家であり、彼の指導の下、生産される野菜や果実は質の高い農産物として評価を受けています。さらに、2014年には、農家の生活向上に多大な貢献があったとして、ジグミ・ケサル・ナムギャル・ワンチュク国王陛下から国家貢献勲章金章を授与されました。この富安専門家が指導に当たるのが中西部地域園芸農業振興プロジェクトであり、本日はそのキック・オフ式典でもあります。

この支援が農家の更なる所得向上につながり、ひいてはブータンの経済・社会活動の発展に大いに寄与することを期待しています。本日の農業協力展示イベントの開催にあたってご尽力いただいた関係機関に再度、御礼申し上げます。

今回の催しが日・ブータン外交関係樹立30周年を祝うブータンでのキック・オフ・イベントとなることを誠に喜ばしく思います。本年が、外交関係樹立30周年にふさわしい年となるようブータン大使として尽力してまいります。